

天理市休日応急診療運営協議会議事録（要約）

日 時： 令和 7 年 7 月 3 日（木）午後 1 時 58 分～午後 3 時 00 分
場 所： 天理市役所 4 階特別会議室
委員出席者： 東田委員、鹿子木委員、八倉委員、楠本委員、澤田委員、井戸上委員
藤田委員、山本委員
委員欠席者： 西崎委員、白濱委員
事 務 局： 健康推進課 森課長、奥田課長補佐、尾崎課長補佐、南田係長

※天理市立休日応急診療所施行規則第 5 条第 2 項に規定する定足数を満たすため、本会議は成立した。（委員定数10名中 8 名が出席）

※本会議の傍聴の希望者：なし

1. 開会のあいさつ（副市長）

省略

2. 委員及び事務局の紹介

省略

3. 会長及び副会長のあいさつ

省略

4. 案件

(1) 資料確認と報告事項

① 令和 6 年度天理市休日応急診療所の実績報告について

[事務局 報告]

（資料 1）実績報告書

[質疑応答]

委員

令和 6 年度の収支は令和 5 年度と比べて改善したが、その要因は何か？

事務局

令和 6 年度は患者数が増加したことで収入が増えたため、赤字が減少したと考えている。固定費である委託費等は削減できないが、患者一人あたりの治療費が高くなったことや、インフルエンザや溶連菌の検査の実施、高単価の薬の使用増加が収支改善に寄与した。

委員

令和6年度の収支で発生した300万円の赤字はどのように処理するのか？

事務局

予め予算計上の際に、診療所収入と市の負担分で支出をまかなうよう予算計上をしており、事業の実施状況を決算にて報告している。

② 令和6年度 年末年始の救急搬送状況について

[井戸上委員 報告]

令和6年度の年末年始における救急搬送状況について、12月29日から1月3日までの6日間のデータ報告。救急搬送件数：合計115件、内科・小児科関連の搬送：87件、インフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の疑いによる搬送：87件中30件。特に、季節性インフルエンザの中等症患者の搬送件数は、令和5年度の8件に対し、3.75倍に増加した。

③ 令和7年度 診療体制の整備について（天理地区医師会アンケート結果）

[鹿子木委員 報告]

「当番制について」

平成28年には25名の会員で休診の当番を組んでいたが、現在は18名に減少。このため、担当回数が年に2回から3～4回に増加している。この状況について、半数以上の医師が負担を感じているとのこと。

「診療時間の延長について」

診療時間の延長について、多くの医師が否定的な意見を示した。受診者は午前中に集中しており、診療終了時間を16時から18時に延長しても、市民サービスの向上にはつながらないとの見解が多かった。

「診療拡充の取り組み」

通常は1人の医師が担当しているが、患者が増加する時期や全国的な感染情報を踏まえ、補助医で対応している。この体制は今後も継続。さらに、市内の病院の医師にも協力を依頼し、当番回数を減らして補助医の参加を促進することが期待されている。通常の当番の輪番表と補助医の表の2パターンで運用を検討。

[事務局 報告]

医師会のアンケートを踏まえ、当番医師の確保について以下2つの方策を考えている。

1. 医師会会員外の継続協力

山添村国保診療所を退職された医師は、会員ではなくなるが、引き続き休診の当番に参加することになった。

2. 地域連携による医師派遣

地域連携の観点から、市内の天理よろづ相談所病院の医師が追加で当番に参加することとなった。

- これらの取り組みにより、下半期には医師を増やし、補助医の体制を整備。患者が増加する時期には、2診療体制で対応することも検討中。また、電話応答サービス会社と協議を進めており、事務員の年末年始の電話対応をスムーズにするための体制を整備。費用対効果の検証も進めていく。

[質疑応答]

- ・回線増設の検討

委員

自動音声は有効だが、回線の増設は可能か。

事務局

年末年始のみの回線増設は難しい。

委員

通常時は不要でも、年始のために回線増設が必要と考える。

- ・予約システムの検討

委員

電話予約のみか。WEB 予約フォームの活用はどうか。

事務局

大和郡山市、生駒市は電話予約制で対応。WEB 予約フォームの導入は現時点では難しい。

- ・軽症患者の案内について

委員

救急隊に連絡があり、隊員が電話で聞き取りして軽症と判断した患者を休日診療所へ案内するのはどうか。

事務局

休診ではレントゲン撮影や血液検査ができず、対応が限られる。重症の場合は転送が必要になる。

委員

明らかに軽症で、受診後に安心して帰宅できるような患者であれば、休日診療所を案内してもよいかもしれない。

5. 閉会